

第 1 8 回総務経済常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 5 年 2 月 2 0 日 (月 曜) 午 前 9 時 3 0 分 開 会			
	休 憩 10:09-10 10:31-45 11:02-03 11:41-42			
	午 前 1 1 時 5 0 分 閉 会			
	休憩時間：0 時間 1 7 分 会議時間：2 時間 3 分			
会 議 場 所	役場 3 階委員会室			
出 席 委 員 氏 名	委員長 鈴木 健充	委 員 中村 和宏		
	副委員長 中田智恵子	委 員 立川 美穂		
	委 員 寺町 平一	委 員 梶澤 幸治		
説 明 員	総務課長	佐々木快治	環境土木課長	橋本 直樹
	行政経営係長	喜多 雅人	課長補佐	齋藤 和也
	農林課長	我妻 修一	都市経営課長	佐藤 季之
	課長補佐	剣持 和裕	都市経営係長	齋藤 錦
	農業振興係	森 敏也		
参 考 人				
欠 席 委 員 氏 名				
事務局職員	事務局長 安田 敦史	総務係長 佐藤 史彦		
<p>『会議に付した事件と会議結果など』</p> <p>1 開 会 委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。</p> <p>2 議 件 (1) 調査事項 ア 自治体 D X の推進について 資料 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務課長：調査事項趣旨説明。資料は担当係長から説明する旨を告げる ・行政経営係長：資料説明（「R 5 予算計上事業」及び「R 4 までの実績」） ・委員長：意見・質疑はないか？ ・立川委員：D X を推進する上で、町が捉える主たる課題は？ ・総務課長：住民が実感できるように行政サービスの満足度を向上させることである。 ・立川委員：計画書のような体裁で町の将来ビジョンはあるのか？ ・総務課長：役場を対象とした「芽室町役場 I C T 計画」は存在するが、町全体を包含するマスタープランは現時点で存在しない。 ・立川委員：業務の棚卸しは、全庁的な取り組みか？特定の部署についてか？ ・総務課長：当然、全庁を対象として、計画的に対象部署を広げていきたい。具体的には、高齢者支援課・健康福祉課・子育て支援課・住民税務課から計画的に取り組 				

んでいく予定である。

- ・立川委員：今後、DXを所管する担当部署についての考えは？
- ・総務課長：1月の「めむろ未来ミーティング」において、町長が発言した内容としては、次年度にはDX専任の担当職員を配置する予定である。
- ・立川委員：分野ごとに推進するのではなく、将来的に全町を範囲とするマスタープランが必要と考えるが、いかがか？
- ・総務課長：できるところから取り組み、総合的な理念にしていく考えである。
- ・立川委員：高齢者等デジタルに馴染みが薄い対象については、理解を得るために丁寧に取り組んでいただきたい。漏れのないDX推進を求めるが、いかがか？
- ・総務課長：御提言のとおり、手法を創意工夫し取り組んでいきたい。
- ・梶澤委員：全職員を対象に現場ヒアリングとなっているが、その詳細は？
- ・総務課長：まずは、アドバイザーと各課等（セクション）のキーパーソンによるヒアリングをイメージしている。
- ・梶澤委員：全職員の共通認識は重要不可欠。キーパーソンの役割は？
- ・総務課長：キーパーソンが主となって、アドバイザーとのヒアリング結果を所管の職員に情報共有と共通認識を図ることを想定している。
- ・梶澤委員：DXの推進にあたっては、優先度を見極め計画的に実施するとのことであるが、一定の時間は要すると考える。岩見沢市などでも十分時間をかけて取り組んでいる。今後の進め方の方向性は？
- ・総務課長：あわてずに、かつ、速やかに取り組んでいきたい。次年度に配置する予定のDX担当の専任職員を中心に、優良事例を参考にしながら取り組んでいくことになると考えている。
- ・梶澤委員：専任職員の配置も手法の一つであるが、民間等から専門知識を持った人材の活用も手法の一つと考える。次年度の専任職員配置は確定なのか？
- ・総務課長：現時点ではその予定である。外部人材も有効な手法の一つであるものの、人材確保も難しく、かつ、内部のことを熟知しているのは内部の人材であることから、専任職員の配置を優先して考えているところである。
- ・寺町委員：業務の棚卸しによる取捨選択の判断は誰がするのか？
- ・総務課長：最終決定は、理事者（町長）となる。
- ・中村委員：DXの推進にあたっては、職員数と整合が取れた業務の精査が基本と考える。DXに取り組むにあたり、優先度の高い部署（高齢者支援課等）での推進について、デジタル化ありきではなく、人と人とのつながりが重要な部署でもあるため、丁寧な導入を期待するが、重要度の認識はいかがか？
- ・総務課長：御意見を踏まえて、アナログとデジタルの特徴と効果を見極めながら、取り組んでいきたい。
- ・立川委員：「DX＝デジタル導入」ではないことを、住民に理解と認識を浸透させることも重要である。優良事例を調査・研究しながら、広報にも取り組んでいただきたいがいかがか？
- ・総務課長：アドバイザーの見識も反映させながら取り組んでいきたい。
- ・中田委員：地域情報化アドバイザー派遣事業について、情報端末を使えない町民へ

の知識・技術普及は含まれるのか？

- ・総務課長：当該事業の対象とはならないが、今後に向けて、アドバイザーとの協議により、活用範囲について協議していきたい。
- ・梶澤委員：RPAの操作研修の対象とは？
- ・総務課長：RPAの対象となるセクションは、現時点では限定的なため、対象業務の担当職員のみならず、職員全体の理解を広げるために、実践研修を想定している。
- ・梶澤委員：職員全員が対象となると理解して良いか？
- ・総務課長：対象は全職員であるが、定型的な業務（契約・伝票起票）を担う職員から順に受講対象としていきたい。
- ・梶澤委員：次年度は優先度の高い4課から取り組むことは理解する。その後の展開は？
- ・総務課長：外部委託は上半期の半年と設定した。その期間に全庁的な業務の棚卸しをし、4課を中心に重点的に取り組む。下半期はその検証を踏まえて、全庁的に取り組みを広げる予定である。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「ア」を終了する。

イ 「芽室町農業DX構想（案）」について 資料2

- ・農林課長：調査事項趣旨説明。資料は課長補佐から説明する旨を告げる。
- ・課長補佐長：資料説明（目的、課題と方策、将来像、ロードマップ）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・梶澤委員：生産現場の課題について、「機械導入の支援策」とは、国・道・町のいずれが事業主体と想定しているものか？
- ・農林課長：現時点では、詳細まで整理できていない。幅広い対応を念頭に今後精査していきたい。
- ・梶澤委員：「農業DX」と「スマート農業」の違いの認識は？
- ・農林課長：「農業DX」はトランスフォーメーションであり、デジタル導入に固執せず、全ての業務を棚卸し点検して、効果・効率的な手法を導くものであり、「スマート農業」は、デジタル技術の活用を優先するものと整理している。
- ・梶澤委員：「消費・流通分野」を対象にする見通しは？
- ・農林課長：今回の構想期間は令和8年度までであり、9年度以降のテーマとしたいと考える。
- ・梶澤委員：消費・流通は既存の機能であり、優先度は高いと考えるがいかがか？
- ・農林課長：御意見を踏まえて、生産者の意識醸成を含めて計画的に取り組んでいきたい。
- ・立川委員：DX導入にあたり、耕地防風林の影響調査にかかる関係研究機関との連携は？
- ・農林課長：現時点では、研究機関との連携は特に予定していないが、今後に向けて

検討材料としていきたい。

- ・寺町委員：スマート農業導入の個別農業者への資金助成はいかがか？
- ・農林課長：資料のロードマップでは、令和5年度下半期以降の検討を予定している。
- ・梶澤委員：農業者にとっては労働力の確保は重要な課題のひとつ。そういった課題解決への手法に取り組む予定は？
- ・農林課長：御提言の事項については、JAと別途協議・検討をしている。ひじょうに大きな課題と捉えており、DX活用の手法も改めて検討していきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「イ」を終了する。

ウ 芽室町地球温暖化対策について 資料3

- ・環境土木課長：調査事項趣旨説明。担当課長補佐から説明する旨を告げる。
- ・課長補佐：資料説明（目的、課題と方策、将来像、ロードマップ）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・梶澤委員：計画策定委員会について、年間会議予定回数は？
- ・環境土木課長：3～4回程度を想定している。
- ・梶澤委員：会議の開催手法について、形式的な位置付けにならないよう、作業部会のような分科会の手法も選択肢としてあり得るが、会議の実効性を担保するためのイメージはいかがか？
- ・環境土木課長：詳細は今後詰めることとなり、御意見を踏まえて会議のあり方を含めて、委員の意見が尊重・反映できるように努めていきたい。
- ・梶澤委員：委員からの個別の意見聴取機会はあるのか？
- ・課長補佐：新年度予算で提案する委託経費の中で、個別意見の聴取を行いたい。
- ・立川委員：外部からファシリテーターを招へいして、会議を行う形式か？
- ・課長補佐：学識経験者である大学教授を座長として、進行を委ねたい考えである。
- ・立川委員：町民委員は公募か？
- ・課長補佐：お見込みのとおりである。
- ・立川委員：計画策定後の取り組みは？
- ・課長補佐：今年度は、計画策定に集中することとなるため、策定後の予定は未定となる。
- ・梶澤委員：構成委員に金融機関を対象としている理由は？
- ・課長補佐：金融機関を対象にした目的は、資金調達のみならず経済動静等の知見をいただくことを視野に入れたところである。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「ウ」を終了する。

エ 芽室町地域集会施設再整備計画の見直しについて 資料4

- ・都市経営課長：資料は担当係長から説明する旨を告げる。
- ・都市経営係長：資料説明（目的、検証と結果、見直し方針、これまでの経過と今後の展開、利用状況分析）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・立川委員：昨今、特にクローズアップされてきた事象として、施設の維持管理を担う人材確保に苦慮していることが課題と捉えるが、町の認識は？
- ・都市経営係長：いくつかの地域集会施設の運営委員会から相談もあり、その課題は町としても認識している。今後、町内会連合会と意見交換をするので、課題整理と解決方法について模索していきたい。
- ・立川委員：管理人の立場に立つと、いつ来るかわからない予約の受付に、いつでも対応できるような時間的拘束が大きな課題と捉える。一例で言えば、申込方法にデジタル活用も視野に入れてはいかがか？
- ・都市経営係長：念頭に置いて取り組んでいきたい。
- ・梶澤委員：「見直し方針」の「(4) 施設規模基準と地域ごとのニーズ」に記載されている「施設規模の明確化」とあるが、従前は明確でなかったという意味か？
- ・都市経営係長：従前も基本的な考え方はあったが、規模の圧縮に向けて一定の数値化を図りたい。
- ・梶澤委員：(上伏古地区においては) 拡大の実績もあるが、それとの整合性は図られるのか？
- ・都市経営係長：上伏古地区の集会施設についても、議会で説明してきたとおり、明確に指標化してきたものである。
- ・梶澤委員：そもそも論となるが、地域集会施設の再整備とは、純粋に地域集会施設単体の整備か？各地区の公共施設等全てを含めての再整備か？この考え方は地域間で統一すべき要素と考えるがいかがか？
- ・都市経営係長：「見直し方針」の「(4) 施設規模基準と地域ごとのニーズ」に記載のとおりである。
- ・梶澤委員：「地域との協議を経て規模を明確化する」となっているが、解釈があいまいだと感じる。再整備計画の根拠となっている「中期財政計画」等を根拠にし、概算整備費や施設規模をあらかじめ一定程度明確にするという意味なのか、それとも、地域協議によりケースバイケースで積み上げた結果で、予算や施設規模を明確にしていくものか、どちらの視点が根拠となるのか説明を求める。
- ・都市経営課長：公共施設等総合管理計画の趣旨は、町全体として、施設の総面積やコンパクト化することが大前提である。その前提に立ち、地域住民のニーズを尊重し規模や金額を確定してきたのが上伏古の実績である。地域集会施設の再整備にあたり、基本的事項を踏まえながらも地域の実状も反映させてきたものである。このことから、本日お示ししている資料のとおり、蓄積したノウハウを生かして再整備にあたっていく趣旨である。
- ・梶澤委員：例えば、農事組合の施設を用途廃止して、集会施設に機能集約する場合は、現行規模から拡大する整備もあり得るのか？
- ・都市経営課長：実際の具体例として、御意見のような声は確認していないが、ケー

スによって、地域ニーズや地域課題を尊重しながら、反映の可否も含めて検討したい。

- ・梶澤委員：地域ニーズによって、他の地域からも理解を得られるような姿勢で、町は整備に臨むということで認識して良いか？
- ・都市経営課長：農村地域のほか、市街地の整備を進めて行くことになり、十分意見を聞きながら整備に臨んでいきたい。
- ・梶澤委員：市街地の整備について、議会と町内会連合会との意見交換の中では、新たに整備することではなく、既存の空き家を整備する手法の提案もあるがいかがか？
- ・都市経営課長：住民の皆さんからは、地域集会施設は自宅から近いことの距離的条件を求められる声もあり、整備にあたっては参考にしていきたい。ただし、町が主体的に設置する施設と、住民の皆さんが独自に対応する施設など、諸条件について精査し、区分すべきか否かなど慎重に見極めながら検討していきたい。
- ・梶澤委員：市街地における集会施設について、整備方針に定める5つの条件を全て満たさなくとも、高齢者が歩いていける範囲の機能を尊重し、幾つかの条件を満たすことで存在させることも必要ではないか？コミュニティの喪失が最も大きな課題である。
- ・都市経営課長：地域コミュニティの維持継続は、集会施設の機能のほか、町全体の様々な分野の施策を組み合わせるべくと取り組んでいくべきと考えている。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「エ」を終了する

オ 芽室町公共施設等総合管理計画の見直しについて 資料5

- ・都市経営課長：資料は担当係長から説明する旨を告げる。
- ・都市経営係長：資料説明（目的、内容、個別施設計画の策定に係る目的、評価、長寿命化対策の推計）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「オ」を終了する

- ・委員長：自由討議について諮る。調査事項「ア」について意見はないか？
- ・立川委員：議会としても研修を計画的に実施するなど、町への調査を含めて継続的に研究を進めていくべきと考える。
- ・委員長：異議ないか？
- ・（異議なし）
- ・委員長：以上で、調査事項「ア」の自由討議を終了する。

- ・委員長：調査事項「イ」について自由討議はないか？「ア」と同様の取り組みとし

たい。異議ないか？

- ・(異議なし)
- ・委員長：以上で、調査事項「イ」の自由討議を終了する。

・委員長：調査事項「ウ」について自由討議はないか？

- ・梶澤委員：委員会の継続調査として、適宜情報を得て研究していくべきと考える。
- ・委員長：異議ないか？
- ・(異議なし)
- ・委員長：以上で、調査事項「ウ」の自由討議を終了する。

・委員長：調査事項「エ」について自由討議はないか？

- ・梶澤委員：昨年の上伏古等の整備実績を踏まえて、新たな方針が明確に計画化されると考えていたが、イメージしていた見直しではなかった。今後は市街地の施設の検討が具体的に始まるため、市街地町内会連合会との意見交換を踏まえて調査を継続していくべきと考える。
- ・(異議なし)
- ・委員長：以上で、調査事項「エ」の自由討議を終了する。

・委員長：調査事項「オ」について自由討議はないか？

- ・(なし)
- ・委員長：以上で、調査事項「オ」の自由討議を終了する。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について
正副委員長一任

(2) その他

- ・委員長：「その他」で各委員からないか？
 - ・(なし)
 - ・委員長：議長からないか？
 - ・(なし)
 - ・委員長：事務局からないか？
 - ・(なし)
- 以上で総務経済常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	0名	合計	0名
令和5年2月20日								
総務経済常任委員会委員長 鈴木健充								